

## 第22回連続講演会

### 荒川支流 旧芝川に学び、野川を考える旅～河川再

### 生活動が生み出す環境学習～

#### 講演1 旧芝川の活動

山本晃嗣氏 株式会社ポエル 社長

#### ■活動のきっかけ

皆さん朝からごくろうさまでした。南八丁目自治会の副会長の山本でございます。

ドブ川だった旧芝川への取り組みということなんですが、それまで川があったことは、みんな歩いている川なんで知っているんです。ただ、あまりにも臭いので寄り付かなかった。それを自分たちできれいにしようという気は全くありませんでしたし、(そういうことは)当然行政がやるものだと思ってました。そこにですね、4年ほど前、「素敵な宇宙船地球号」という(番組の)ディレクターが飛び込んで参りました。

そもそも、番組が今まで「素敵な宇宙船地球号」が取り組んできたプロジェクトというのは、きれいになった川、要するに多摩川のみなさんのように自分たちで(川を)きれいにしてから、それを紹介してきたんですね。今回は、最初から川をきれいにするプロジェクトをやろうということを考えだしまして、埼玉県で汚い川はどこなんだと聞いたら、旧芝川が汚いよという話の中で旧芝川が出て来て、旧芝川はどこを流れているんだ、川口市と鳩ヶ谷市の間を流れています、と。川口市に行ったら、「好きにやって下さい」とそのままになっちゃって、鳩ヶ谷市に行ったら、「それは県の仕事でしょう」と、全然受け付けてくれない。そこでディレクターは困りまして、この近辺の自治会長の所に来て、「お願いします。なんとか力になって下さい」と頼んだんです。そこからみんなで、「川をきれいにするんだったら協力しましょうよ」となったんですが、「どうやって川をきれいにするんだい？」っていう話から、川口の人は植栽、私たちはえひめAIを使うことになったんです。

#### ■えひめAI 導入の経緯

そのえひめAIなんですが、事前にディレクターがインターネットで、(川を)きれいにするものはないかということで、調べたんですね。すると、アコヤガイの大量斃死をきっかけに川に棲む微生物を活性化させることが海をきれいにできるという資料を開発した先生がいることにたどり着いたんですね。

ディレクターが足を運んで相談した結果、「それは川でも使えるよ、ただし家庭で使ってもらわないと困るんだ」となった。それをどうやって家庭で使えばいいんだとなった時に、先生から「差し上げますから使ってくれ」と、最初の段階で(えひめAIを)隣の自治会と1トンずつ、2トンもらったんですね。

最初は、「後で売り付けられるから気をつけろ」って、女性の役員さんが言ってたんですが、「きれいになるんだったら使ってみようじゃないか」と。で、最初に来たえひめAIってのが、さっき(DVD上映会で)見た黒いえひめAI-1。さっき(自治会のみなさんが作ったえひめAI-2)はイイにおいだなって言ってたけど、(えひめAI-1は)とてもじゃないけど臭くて使えるもんじゃないんですよ。でも、なんとか使っちゃおう

ということで、500ミリのペットボトルに入れて、各自治会に当時330軒弱の各家庭に一軒ずつ配りました。使い方はこうだと、説明しながら、「これを使ってくれ」と配って。でも、週2回も配ってるうちになくなっちゃったんですね。毎月毎月そんなに配っていたらなくなっちゃうんでどうしようかと言っていたら、作ろうかという話になったんです。ちょうどそのころ、川は臭いが消えてきてたのもあって、これ(えひめAIで川をきれいにすること)はもしかしたらいけるかも、と(いう希望が出てきた)。そこで、自治会の皆さんに、これ(えひめAI)を使った方がいいのかどうか、というアンケートをとったんです。そしたら半数以上が続けてくれと回答したので、じゃあ自治会で続けてその費用は自治会から差しましよう、となったんです。

#### ■地域に広がる河川再生の動き

で、ちょっと話が戻っちゃうんですけど、自治会員に(えひめAIを)使わせるのにどうしたらよいかという話になるんですよ。各自治会の方も運動されてる方も(えひめAIを)良いものだと分かっているんだけど、どうやってみんなに使ってもらおうかということが第一問題だったんです。自治会の役員が相談した結果、「川がきれいになるからやってみろ」って言っても誰もやらないから、自治会長の一言で、「自分の家がきれいになるんだから使ってみな」というところから、もってつたんですね。台所の流しがきれいになりますよ、ぬめりがとれますよ、お風呂がきれいになりますよ、というところからもってって、使ってもらうことになりました。使っているうちに、みなさんが具合がいい、最終的に川がきれいになってきた。そういうことが分かって、自治会で作るようになりまして、第二日曜に毎月毎月配るようになってきました。それで、その後4年間続けておりますが、今だに月100Lずつ出ているから、みなさんにそれだけ使っていただいているってことですね。

それから、みなさんのようにこの鳩ヶ谷市南八丁目を目指して見学に来る方が、平均したら月に1回くらいはあるんでしょうか。多い月は3回くらい、あちこちの団体、遠い所は仙台、南の方だと高知県。高知の方はいまだに電話なりメールをいただくんですけど、魚の腸のにおいが町中のドブに入っちゃって、どうしようもなく、鳩ヶ谷市の下水道課に電話がかかってきて、市役所を経由して(自治会に話が)きました。その高知の課長さん、作り方からどうやったらみなさんに伝えられるかというノウハウまでを聞いてお帰りになりまして、その後、本当にいい、すばらしいと(評判で)、これからは福祉施設で作っていただけることになったらしいです。

それから、(えひめAIの)作り方を教えて下さいと、隣の川口市の学校のPTAから鳩ヶ谷市に電話があって、私と(下水道局の)課長ともう2方で行ってまいりまして、1日2時間半くらい、講習やってきました。それが3年前なんですが、その後2年間その時期になると、私一人だけ毎月毎月呼ばれるようになりました。今年から近隣の小学校にもう一校行くようになって、今川口の小学校では、授業の中で微生物を教えるという時(丁度いい時)に、えひめAIの紹介をするようになってきました。これは当然ボランティアで行っているんですが、こういったボランティアだったら喜んで今後も続けていきたいと思っています。

それから今後のことなんですが、これタダだったらやってくれという自治会員の方もいるんですが、これは当然皆さんから自治会費をいただいた中で作っておりますので、今後も当自治会は自治会長はじめ環境部長、そして役員共々ですね、こうした川をきれいにしていくという目的以外のこともありますので、続けていきたいと思っております。それと、同時に県が動きだしまして、「素敵な宇宙船地球号」の最後の方、ちょうど、

ドブ貝を荒川水系から取ってきてそれを川に埋める時に、埼玉県知事も一緒に参加しまして、それから川のことを研究し始めたら、日本で一番河川が多いのが埼玉県であるということが分かりまして、彩の国・埼玉は川の県でもあるということで、川をどんどんきれいにしていこうというプロジェクトが立ち上がり、水辺改良作戦とかそんな名前でも打ち出しまして、旧芝川もトップにあがりました。私もその役員を行っておりますが、ここに「川の里親制度」というものを、市と協力して作っていきこうという話になりました。「川の里親」というものは、各自治体が川に面してる部分を自分の川・自分の庭として、川を守っていこうという働きかけで、その（直接管理にかかわる）費用は出ませんが、掃除してもらったゴミだとか、使用する軍手だとかは市や県が補助しましょう。ゴミは鳩ヶ谷市が処理しましょうという約束で、今までも発足しようとしています。ただ、今のところ、私はここですよという場所は提示してありませんのでそれが決まり次第、里親という名前であそこ（川）に看板が立つのだらうと思われまます。今後はそういったはたらきと共に、今までやってきたことを繰り返し自治会の方に教えることによって、川をきれいにしていければと思います。今後とも続けていきたいと思いまますので、皆さんが数年経って来たときに、あのときよりもきれいになったなという川になっていければ最高だと思います。

それと今日良かったのは、魚を採っていただいたんですね。その時に、ボラがいてテナガがいて、チチブがいてカダヤシがたくさんいましたね。こんな寒いのによく魚も、またみんなに捕まるのろまな魚もいたもんだと思ったんですけど、中にはゴカイがたくさんいるということなんで、ハゼがたいぶあがってきてるんだな、と。ハゼがちょうど天ぷらにしてちょうど美味そうなのが取れたんで、環境部長がこれからあそこでハゼ釣りをするなんて言っていましたね。あそこでハゼが釣れてね、食べられるハゼが来るくらいきれいになるよう、ぜひそういったことだったら早くできるように。きれいになると、東京湾と水が行ったりきたりしてるのでハゼがあがってくると思われまます。今後ともこういった働きを続けていきたいと思いまます。これもまた皆さんのあちこちからきていただいて、きれいだなと思われる川にしていきたいと思いまますので、よろしくお願ひいたします。どうも今日はありがとうございました。

#### 【質疑応答】

質問：えひめAIですが、非常にいいという話を伺いましたが、副作用として害があるということはあるですか？

回答（山本氏）：はい。たぶん、暑い日が来なかったらわからなかったと思うんですが、45度以上で保管しますと、乳酸菌が減少して納豆菌が異常繁殖するものですから、アミノ酸などの蛋白質をものすごい腐敗臭がするアンモンに変えてしまうんですね。（成分的には）肥料には非常に良いんですがそのまま家庭で使うとなると、ちょっと臭いですね。それと、納豆菌が異常繁殖するものですから、pH3.5だったのがpH4~5となって（酸性が弱まるため）、臭いだけが強くなります。

質問：水門が閉まる前の芝川だったころの話を教えてください。

（山本氏が秋元氏に話題提供を求める。）

回答（秋元氏）：私が覚えてる頃は昭和25・26年。その頃はね、芝川はものすごくきれいだったんです。流れも速くてね、それで、いろんな魚も取れた。川門の商売をやってる人もいたんですね。それが昭和28・30頃になるとね、経済の成長と共にずいぶん汚れてきたんですね。ゴミがいっぱい浮いててね。子供の頃から考えると（そのような状態は）考えてもいなかったです。それが今日、にきれいになって、まあ少し排水溝のあたりは臭いかもしれないけど、まあなんとか歩けるような川にな

ってきたんですね。ただ、これ以上ちょっと無理かなということも考えるんですよ。というのは、本流が汚いから。われわれが一生懸命にここでやってもね、本流のほう汚い水を流したら、きれいにはなりませんよね。

回答（山本氏）：（旧芝川は）大水が出て水没して、そういったドブ川になってしまった所なんです。ここは昔、土手は右の方にあるんですけど、水のいっぱいになる泥崖だったんです。それをなくすために水門で両方を遮断して、流れない水場が旧芝川の馴染み初めで、新芝川の水は流れていった。それから、ポンプ場で誰かがスイッチを入れ忘れると水位が上がることがあります。2回ぐらいありましたね。大した水害にはなりません。それが以前の芝川でございます。